

当院では今後、院内診療・往診に次ぐ第3の診療の形態として、「**オンライン（遠隔）診療**」導入の具体的な検討・準備を始めます。

【1. 概要】

インターネット、スマートフォン（またはパソコン）を活用して、**テレビ電話形式**で当院長等と対面の形で診療いたします（↓下図）。



【2. 目的】

- ①患者様にとっての選択肢を増やし、診療の利便性向上を図る
→ご体調等の事情から当院へのご来院が困難である場合。またはご来院や往診にあたり、どうしてもご都合が合わない場合など
- ②診療の質、安全性をより一層向上させ、地域医療に貢献する
→例えば、感染性のある症状の場合、可能な範囲での速やかな遠隔診察により、症状悪化や地域での感染拡大の防止につながります。

【3. 具体的な対象】

あくまでも現時点で想定されるケースです（変更の可能性あり）。:

- Ⓐ感染性のある症状（流行性角結膜炎など）
→初診またはウィルス検査を行う等の場合はご来院が必須
- Ⓑ検査や触診なしで診察のみの場合（経過観察、ドライアイ等）
→再診のみ。原則として数回に1回は検査等のためご来院が必須
- Ⓒコンタクトレンズ継続購入の場合※1）→現時点では将来課題
→初診または間が空いている、度数変更等の場合はご来院が必須
※1：簡易的な視力検査を遠隔で行って問題ないと判断される場合。
ここは特に入念・慎重な検討・検証が必要と考えています。

【4. 導入の背景】

- ・医師不足地域における医療の充実などを主眼として、国（政府、厚労省）が近年オンライン診療を推進していること
- ・その国の方針を受け、今年4月より新たに保険診療としてオンライン診療を行えるようになったこと※2
※2：「オンライン診療料」などの保険点数が新たに項目追加。

【5. 今後の予定】

現時点では具体的な実施時期は未定ですが、無理のない範囲で**早期**に開始できるよう、重点的かつ慎重に調査検討・準備を進めます。
→全国的には眼科を含めオンライン診療を導入済の医院も存在します。
他院殿の先例も参考に、当院としての方式を早期に確立します。

なお、実際にご来院いただき（または往診の場で）院長と対面しての診察があくまでも基本中の基本であり、それは今後も変わりません。
→今後も引き続き院内診療がメインです。オンライン診療は、往診と並んで、あくまでも補助的・簡易的な診療形態という位置付けです。

本件については、進捗があり次第、追ってお伝えします。
引き続き、より良い医療のため全力を尽くしてまいります。

以上